自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール　　令和７年　グループホーム成島園【和やかユニット】

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
Ⅰ.理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人理念に「人が人として尊厳をもって地域や家庭の中でその人らしい自立した生活が送れるよう支援いたします」を掲げ、月例会議や職員全体会議、その他の法人内会議において理念の朗唱を行い、管理者と職員が理念を共有している。また、年度初めにはケアの指針マニュアルを活用し、全職員で読み合わせを行うことで理念の理解を深め、定期的に振り返りながら実践につなげている。 さらに、地域密着型サービスとして、運営推進会議を通じて地域住民や関係機関と理念を共有しているほか、地域の運動会への参加や文化祭への作品出品など、地域行事への積極的な関わりを持つことで、利用者が地域の一員としてその人らしい生活を継続できるよう支援している。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運動会や文化祭など地域の催し物へ参加している。また、地域の町興しでもある「桔梗の里作り」には、地域より桔梗の種を頂いて種から育て、苗を地域に還元し、地域づくりの一員として積極的に参加した。 「米沢花いっぱい運動」へも全員で参加し、地域の活性化に取り組んだ。			
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない	2ヵ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者や家族代表者、地域の代表者、米沢市役所職員に参加して			

		見をサービス向上に活かしている	D. ほとんどできていない	いただいている。会議では、利用者の生活状況、災害・防災訓練の実施状況、職員研修の内容、サービス提供の実際などを報告し、参加者と意見交換を行っている。 参加者から寄せられた質問・意見・要望は記録し、必要に応じてサービス改善に反映している。これにより、事業所の取り組み状況を地域と共有するとともに、運営推進会議での意見をサービス向上に活かす仕組みが機能している。			
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議には、毎回、米沢市役所職員に参加していただき、定期的に意見を聞く機会を設けている。質問・意見・要望をいただき、ケアサービスの充実と向上に活かしている。			
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人内外の研修に参加し、身体拘束への理解を深めている。日中はセンサーチャイムを活用し、玄関に鍵をかけない工夫をしている。利用者一人ひとりの状態を把握しながら、低床ベッドやセンサーマット、モーションセンサーを使用する等、事故防止の視点を持ち、安全に配慮しながら取り組んでいる。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人内に虐待・身体拘束委員会を設置し、3ヵ月に1度開催している。委員会では、高齢者虐待防止関連法や身体拘束に関する最新の情報共有を行い、職員の理解向上に努めている。また、虐待や不適切なケアに関するチェックリストを全職員が記載し、該当項目があった場合には対応策を検討し、改善につなげてい		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	

				る。 一部の職員に認知症への理解不足から不適切な発言が見られることもあるが、その都度委員会や会議で振り返りを行い、適切な関わり方を学ぶ機会を設けることで、虐待防止の意識向上とケアの質の改善に取り組んでいる。			
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	成年後見制度について、月例会議や法人内外の研修で学ぶ機会を持ち、必要に応じて活用できるよう支援している。日常生活自立支援事業についても学ぶ機会を持ち、支援できるように努めてる。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族に文書と口頭において十分な説明を行い、不安な点や疑問点を聞きながら、理解・納得を得ている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事業所内に意見箱を設置し、いつでも意見や要望を聞く事ができるようにしている。運営推進会議では毎回意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映させている。また家族への電話連絡時には、近況報告を行うと共に、意見をもらっている。頂いた意見については記録に残し、職員内で共有している。家族来訪時、利用者個人ケース記録を見てもらい、意見・要望等があれば記入していただいている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	月例会議や職員全体会議において意見交換の場を設けているほか、年１回の代表者・管理職との個別面談を通じて職員の意見や提案を把握している。これらの意見は必要に応			

				じて運営に反映されており、職員の声を取り入れる仕組みが継続的に機能している。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	月例会議や職員全体会議にて、意見交換をしながら、専門職としてのやりがいを感じられるようにしている。労働条件に関しても話し合いの機会をいつでも設けている。また、人事考課を導入し、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握して業績評価のしくみを確立している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員のケアの実際と力量を日常業務や面談等を通じて把握し、その結果に基づいて法人内外の研修計画を策定している。また、必要に応じてOJTを実施し、働きながらスキルを高められる体制を整えている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている Ⓒ あまりできていない D. ほとんどできていない	毎月発行している広報紙を市内のグループホームへ届ける際に、運営状況や支援方法に関する情報交換を行っている。交流先は１カ所ではあるが、他事業所の取り組みを知る機会として活用し、得られた情報をサービスの質向上に役立てている。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人のできることや得意なこと、好きなことを把握し、家事仕事や畑仕事、花壇づくりなどを利用者と職員が一緒に行っている。こうした共同作業を通して、介護する側・される側という関係ではなく、支え合いながら暮らしを共にする関係づくりができている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居以前から関わりのある家族や地域の方に面会に来ていただいたり、希望のある方については入居前に暮らしていた自宅を訪れる機会を設けるなど、本人が大切にしてきた			

				馴染みの人や場所を把握し、その関係が途切れないよう支援している。			
Ⅱ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	普段の会話の中で、利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な場合は、家族から本人の生活歴など聞き取りを行ったり、本人の表情や行動から職員が本人の意向の把握に努めている。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護職員が日常生活の中で得た本人の気づきやアイディアを記録し、センター方式 24 時間シート等を用いて本人の状態を把握している。これらの情報をもとに、利用者の視点に立った個別の介護計画を作成し、計画の実施状況を評価しながら、現状に即した介護計画へ適宜見直しを行っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の暮らしの様子や気づき、ケアの実践・結果についての記録は継続して行われている。しかし、記録された内容が実践の工夫やケアの改善に十分反映されない場面があり、個別ケアの深まりが弱くなる傾向がみられる。今後は、記録と実践をより結びつけるために、職員間での共有や話し合いの機会を充実させ、介護計画の見直しにつなげていく必要がある。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者より散髪の希望があった時に、家族と相談しながら訪問理容のサービスを提供するなどして、出来る範囲で柔軟に取り組んだ。また、家族からの医療についてのニーズにも、家族と相談しながら対応している。			

20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 充分にできている (B) ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域資源の把握が十分とはいえず、毎年同じ内容の取り組みに偏る傾向がある。こうした状況の中でも、地域資源との協働として「桔梗の里作り」に参加し、地域からいただいた桔梗の種を育てて苗を還元する取り組みを行っている。また、「米沢花いっぱい運動」やオレンジガーデニングプロジェクトには、利用者が楽しみながら参加している。さらに、地区の文化祭へ作品を出展するなど、本人が心身の力を発揮しながら地域とのつながりを持てるよう支援している。今後は、地域資源の幅を広げ、より多くの利用者が関われる活動を検討していく必要がある。			
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(A.) 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人や家族が希望する医療機関や、かかりつけ医との関係を大切にしている。受診時は職員が付き添って、本人の状態に応じて状態報告を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。また、受診後は、通院記録を記入し、家族へ受診結果の報告も行っている。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(A) 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入院時には、入院先の医療機関に対し速やかに情報を提供している。入院中は医療機関から利用者の現状を聞くよう努め、職員間で情報を共有している。主治医・医療相談員や担当看護師とのカンファレンスの際は、家族と共に参加し、早期退院に向けて取り組んでいる。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(A) 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	重度化や終末期を迎える可能性について、入居の契約時や担当者会議などの機会に本人や家族と話し合いを行い、本人の思いや家族の意向を確認している。そのうえで、事業所		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	

				として提供できる支援内容や対応の範囲を丁寧に説明し、方針を共有するとともに、必要に応じてお住み替えの提案も行っている。また、医師・訪問看護など地域の関係者と連携し、情報共有を行いながら、チームで本人の状態に応じた支援を継続している。			
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 充分にできている (B). ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	定期的に月例会議時に「利用者状態変化時ガイドライン」等を基に緊急時の対応について確認し、職員全体で初期対応の流れを共有している。また、応急手当講習会を受講し、急変時に備えた知識の習得に努めている。しかし、実際の急変対応の経験はなく、実践力が十分に身についていない職員もいるため、今後も継続的な訓練や振り返りの機会を設け、急変時に適切な対応ができるよう取り組んでいく必要がある。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている (B) ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	火災・地震・水害などの災害時に昼夜を問わず利用者が避難できるよう、毎月の月例会議では出席職員が搬送訓練や発電機の使用訓練を実施している。訓練内容は職員間で共有され、全職員が必要な対応を身につけられる体制を整えている。 また、災害発生時の連絡体制を整備し、定期的な通報訓練も行うことで、緊急時の対応力向上に努めている。さらに、地域防災協定を締結し、地域との協力体制を構築している。各居室の門標には利用者の救護方法を示すシールを貼付し、地域住民が支援方法を把握しやすいよう工夫している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 充分にできている (B.) ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人ひとりの生活リズムや価値観を尊重し、個別性に配慮した声かけや支援を行っている。多くの職員が丁寧なコミュニケーションを心がけている一方で、不適切な声かけを行う職員が若干名おり、改善に向けた指導を継続している。 利用者の気持ちや選択を大切にし、否定的な言葉や命令的な口調を避け、本人のペースに合わせた関わりを基本としている。 また、居室への入室時には必ずノックと声かけを行い、私物の取り扱いについても本人の意思を確認してから対応するなど、プライバシーの確保に努めている。 これらの取り組みにより、利用者が安心して自分らしく生活できる環境づくりを進めている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(A) 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人ひとりの今までの暮らし方や、現在の過ごし方、思いを把握・尊重し、本人らしい暮らしができるよう努めている。事業所周辺での散歩や趣味活動、畑仕事、居室や施設内の掃除、入浴、休息など、その日をどのように過ごしたいか、本人の希望や意向に沿って支援している。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(A.) 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者と一緒に畑や庭で野菜を育てたり、周辺で山菜を収穫した物を食材とし、季節を感じられる食事作りを行っている。利用者に食材を見てもらい、調理方法を一緒に考えて調理を行うなど、利用者一人ひとりのできることを把握しながら、利用者の好		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	

				みや力を活かせるようにしている。使用した調理器具や食器の洗い方や拭き方、飲み水の準備、下膳、テーブル拭きなどの声掛けを行い自分のできることは自分で行えるように支援をしている。			
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人ひとりの食事量・水分量を把握できるよう記録している。利用者に合わせた形態で食事を提供し、食事量が少ない利用者には、栄養補助食品や嗜好品などを用いて提供している。栄養バランスについて、提供した食事内容を毎月法人内の管理栄養士に確認してもらい、アドバイスを献立に活かしている。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	起床時や食後、就寝前に声掛けや誘導を行い、義歯洗浄やうがい、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。一人ひとりに合った口腔ケア用品を使用し、清潔保持ができるようジェスチャーを交えて声掛けを行なったり都度手順を伝えながら、本人の力に応じた口腔ケアを行っていただけるように努めている。磨き残しがある際は介助にて仕上げ磨きも行っている。義歯が清潔に使用できるように、洗浄剤を使用する声掛けや、介助を行っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 充分にできている Ⓑ. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人ひとりの排泄状況を排泄チェック表で把握し、本人のタイミングやしぐさ、言動に合わせて声かけやトイレ誘導を行うなど、個々に応じた自立支援に取り組んでいる。便秘傾向のある利用者には、オリゴ糖入り飲料や乳飲料の提供、こまめな水分摂取の促しなど、状態に応じた工夫を行っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	

				一方で、排泄の失敗を減らすための声かけのタイミングや誘導方法にばらつきが見られる職員もおり、支援の統一化が課題となっている。			
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人ひとりの希望を確認し、入浴の仕方や湯加減などの好みに合わせて個別に対応している。浴槽のまたぎが困難な利用者にはシャワーキャリーを使用するなど、安全に配慮しながら入浴を楽しめるよう支援している。また、利用者の羞恥心に配慮し、同性介護を基本としている。 一方で、入浴の実施にあたっては職員の配置状況を踏まえ、無理のない範囲で希望の時間帯に対応できるよう調整している。可能な限り利用者の希望を尊重しつつ、安全確保と職員体制の両立を図りながら支援を行っている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人ひとりの入居される前の生活習慣や現在の生活状況を考慮し、本人に合わせた休息時間を取り入れている。居室以外でも利用者共有のソファなどで、安心して休息がとれるように支援している。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	全職員が服薬情報((服薬内容や副作用など)を理解し、医師の指示通りに服薬支援を行っている。利用者に状態変化がみられた場合には、速やかに医療機関と連携し、対応するよう努めている。また、服薬について誤薬や飲み忘れがないように服薬マニュアルに沿ったルール内容の張り紙をして、意識づけができるように努めている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	

35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(A.)充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	アセスメントの中で、利用者一人ひとりの得意なことや、趣味、興味のあることを把握し、家事仕事や畑仕事、裁縫など、日々の生活の中で活かせるよう環境作りを行っている。また、軽運動を行ってもらうなど、気分転換に繋がるよう支援している。嗜好品について希望があれば、職員と一緒に買い物に行き、購入できるように支援している。			
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 充分にできている (B.)ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	畑や庭、グループホーム周辺の散歩、わらび採りや畑での野菜収穫など、季節や状況に応じて外出支援を行っている。また、日用品や嗜好品の買い物、希望する利用者への選挙投票の付き添いなど、社会参加の機会を設けるよう努めている。 その日の希望に必ずしも対応できない場合もあるが、可能な範囲で利用者の意向を確認し、職員体制や安全面を考慮しながら外出の機会を調整している。			
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(A.)充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人ひとりの希望や力に応じて、自分でお金を所持できるように支援している。 本人の買い物をする場合には、支払いができるような声掛けや見守りを行い、日常生活でお金を持つことの大切さや喜び、意義などを感じられるよう支援している。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(A.)充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の希望に合わせ、家族や大切な人との電話や手紙のやり取りができるよう支援している。 具体的には、家族や知人への手紙・年賀状の購入・作成や、本人への郵便物・贈り物へのお礼の電話・近況報告等のほか、本人より家族や知人			

				に電話を掛けたいとの希望があれば、電話が出できるよう支援を行っている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	リビングや和室に、グループホームの花壇から採った花を花瓶に入れて飾っている。毎日の天候や気温、湿度を把握し、過ごしやすいように調節をしている。トイレの場所がわからなくなる方もいるため、トイレの表示を様々な文字や絵で表示している。冬期間は暖房を使用し乾燥するため、各居室やリビングに加湿器を設置し、温湿度計を確認しながら適度な温度・湿度を保っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
Ⅳ. 本人暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者本人の希望に沿って買い物に行くことができるよう支援しており、感染症対策にも配慮しながら実施している。日々の何気ない会話の中で本人の思いや願いを傾聴し、園内周辺の散歩や畑仕事など、実現可能な内容についてはできる限り取り入れ、本人の意向に沿った暮らしが行えるよう支援している。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人ひとりの生活歴、家族関係、友人関係、これまでの暮らしの習慣、趣味・嗜好などの情報を、センター方式アセスメントを通して担当職員全員で共有している。これらの情報は支援計画の作成だけでなく、日々の関わりの中でも積極的に活用しており、会話の中に家族や友人の名前、好きな話題、過去の経験を取り入れることで、利用者が安心して過ごせる関係づくりにつなげている。 また、生活歴に基づいた声かけや活動の提案を行うことで、本人がこ			

				れまで大切にしてきた暮らし方を継続できるよう支援している。職員間での情報共有は定期的に行われており、誰が関わっても一貫した支援を提供できる体制が整っている。 これらの取り組みにより、本人が自分らしさを保ちながら安心して生活できる環境が実現している。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎朝、血圧・脈・体温・酸素飽和度の測定と体調を確認し、状態に変化があれば看護職員やかかりつけ医に連絡し対応している。ホーム内の各所に手すりを設置し、本人の力で安全に移動できるようにしている。また本人の身体状況に合わせた介助や居室の整備を行い、歩行器具やセンサーチャイム・コールマット等を使用し、安全な環境を整えている。身体機能維持の為、体操や足踏み・屈伸運動を行っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事・家事仕事・お茶会・余暇活動・休息は、なるべく自分のペースで行うことができるように支援している。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者は、それぞれ使用していた思い入れのあるもの（家具・鏡台・ベッド・布団・仏壇・家族の写真など）と一緒に生活している。レイアウトについては、動線上になるべく物は置かず、転倒に繋がらないような配置にして、安全な生活ができるようにしている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の意向に応じて、園内周辺の散歩や畑仕事などの戸外活動を行い、気分転換や楽しみにつながる支援を実施している。買い物については、本人の希望を確認したうえで、職			

				員の配置状況や安全面を考慮しながら対応しており、可能な範囲で希望に沿えるよう調整している。 日々の会話の中で本人の思いや願いを丁寧に傾聴し、実現可能な内容についてはできる限り取り入れ、本人の意向に沿った暮らしが行えるよう支援している。また、季節ごとの行事（笹巻作りや芋煮会など）や地域の運動会についても、本人の興味や希望を確認し、参加できるよう支援している。			
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	センター方式アセスメントを活用し、利用者一人ひとりの得意なこと・趣味・興味のあることを把握し、本人の現状に合わせた家事仕事や余暇活動での役割を提供できている。職員が一緒に行うとできるものもある為、参加の声掛けをし、余暇活動（縫い物、編み物、折り紙、ゲームなど）を行っている。			
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の暮らしの中で、職員や利用者同士のお茶飲みなど、交流の時間を設けて思い思いに過ごせるようにしている。また、センター方式アセスメントを活用し、家事仕事・畑仕事・余暇活動（折り紙創作・塗り絵・裁縫・書道）などで自分の得意なこと・好きなことを活かせる活動場面を得られるように支援している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	Ⓐ. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地区の文化祭への作品出展や運動会への参加、また、「広幡地区桔梗の郷づくり」への協力として桔梗の苗を育苗して寄贈し、地域の人々と関わりを持つことができている。			
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地	A. 充分にできている	本人は、馴染みの職員や利用者		A. 充分にできている	

		域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	と日々の会話や家事仕事、畑仕事などを通して親しみを深めながら、安心して生活できている。家族会事業や季節の行事、地域の運動会などへの参加を通して、地域の人々との交流の機会も持つことができ、社会とのつながりを感じながら過ごしている。 自然豊かで静かな環境と、少人数で家庭的な雰囲気の中で、本人の意向に沿った活動や生活リズムが尊重されており、自分らしく、よりよい日々を送ることができている。		B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	